

# 研究集録

令和5年度

秋田県立角館高等学校

## 目 次

巻 頭 言 校 長 佐 藤 彰 久

### 【Ⅰ】 校内研修

第1回互見月間

第2回互見月間

### 【Ⅱ】 実践的指導力習得研修1年目

保健体育科 原 雄 太

校内研修実施状況

研修を終えて

### 【Ⅲ】 中堅教諭等資質向上研修

特定課題研究レポート

研修を終えて

国語科 築 田 晃 子

### 【Ⅳ】 校内研究授業 (令和5年10月24日実施)

地歴公民科 授業者 山 内 孝 太

保健体育科 授業者 原 雄 太

国語科 授業者 築 田 晃 子

商業科 授業者 有 坂 美 咲

## 巻 頭 言

校長 佐藤 彰久

昨年4月1日、教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律等が施行した。これにより新たな教員研修が始まった。文部科学省による「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関するガイドラインの留意点」には、次のように研修を進めることになっている。これによると、教師と学校管理職とが、研修履歴を活用して対話を繰り返す中で、教師が自らの研修ニーズと、自分の強みや弱み、今後伸ばすべき力や学校で果たすべき役割などを踏まえながら、必要な学びを主体的に行っていくことが求められている。これまでの免許更新制度のもとでは、更新すること自体が目的となって、研修をしなければならぬと感じていた教員が大多数だったのではないかと。このように、やらされ感たっぷりの研修と、今後進めようとしている教員自らが求めて取り組む研修とでは、自ずとその成果に大きな差が生じることは想像に難くない。せっかく時間と経費を費やして研修するのであれば、成果の上がる実り多い研修にしたいと考えるのが至極当然のことである。

先日、時事通信社が発行している「内外教育」の2024年3月1日号の記事が目にとまった。『「苦手」から「手放せない」へ』と題した記事である。それは、東京都の小学校教諭の取り組みを紹介していた。この先生は今でこそ「ICTはもう手放せません」という授業スタイルになっているものの、数年前まではICTを児童に使わせて授業をすることは苦手であった、というよりむしろ嫌いでさえあったという。そんな先生が、今では区の教育委員会のデジタル教科書等専門官としてバリバリ活躍している。そのきっかけは、6年生のプログラミングの授業を担当したことであった。児童一人一人が端末を使ってプログラムを考え、ブロック玩具でつくったロボットを動かすことを目標にした授業によって、子ども達の変容を目の当たりにしたことが大きかったようである。「あんなに発想豊かに話すのを初めて聞きました。批判的に物事を考える力があつたことを知りました。」と語り、このような子どもの変化は、それまで行ってきた一斉指導中心の授業スタイルでは引き出せない姿だと感じたという。教員が喜びや生きがいを感じる瞬間とは、自らが施した支援によって子ども達が目に見えて変化し、成長していく様を実感できたときではないか。小学生と高校生の違いはあれど、高校教員の我々も今まで見られなかった生徒の姿を授業等によって引き出すことができたならば、なんと素晴らしいことであろう。自らの授業によって日増しに成長を遂げていく、そんな生徒の姿を見てみたいという思いが主体的に研修に向かう原動力になるのではないかと。

さて、今年度の研究集録には、中堅教諭資質向上研修等に携わった2名の先生方の研修記録が収められている。職員会議の際にも研修報告をしていただいた内容もあるが、成果を共有しながら共に知識・技術を高めていくことが教員団全体の力量アップにつながる。是非この研究集録に目を通してほしいと思っている。原稿執筆者や編集に携わっていただいた先生方に感謝し、これまでの、そしてこれらの取り組みが本校生徒の育成に大いに寄与することを期待して結びとする。

## 令和5年度 第1回 互見月間

研修部

- 1 期 間 令和5年5月29日（月）～6月17日（金）
- 2 重点目標  
教員相互に授業参観する事を通して、自らの授業を振り返り改善の手立てを考察する機会とし、個々の授業改善を図る。生徒が主体的に学ぶ姿勢を育てることを目指し、「考える時間」「相談する時間」「発表する時間」を設定した学び合い授業の展開を工夫する。
- 3 授業参観について
  - ・期間内は、必ず自教科と他教科を1クラスずつ参観すること。あらかじめ、「授業参観希望シート」を授業の担当者に渡す。
- 4 その他
  - ・授業参観後は「授業参観メモ」を授業の担当者へ渡す。

## 令和5年度 第2回 互見月間

研修部

- 1 期 間 令和5年11月1日（月）～11月26日（金）
- 2 重点目標  
教員相互に授業参観する事を通して、自らの授業を振り返り改善の手立てを考察する機会とし、個々の授業改善を図る。生徒が主体的に学ぶ姿勢を育てることを目指し、「考える時間」「相談する時間」「発表する時間」を設定した学び合い授業の展開を工夫する。
- 3 授業参観について
  - ・期間内は、必ず自教科と他教科を1クラスずつ参観すること。あらかじめ、「授業参観希望シート」を授業の担当者に渡す。
- 4 その他
  - ・授業参観後は「授業参観メモ」を授業の担当者へ渡す。

## 1 はじめに

私が角館高等学校に赴任してから早2年が経った。今年度は学級担任を受け持つことになり、多くの先生方にお世話になるとともに、今現在もさまざまな場面で助けていただいている。研修は2年次、3年次になるにつれて日数は少なくなっているが、今年度も教員としてのノウハウを多く学ぶことができた。今回は実践的指導力習得研修1年目で行った「授業研究会」を終えて感じた成果と課題を紹介したいと思う。

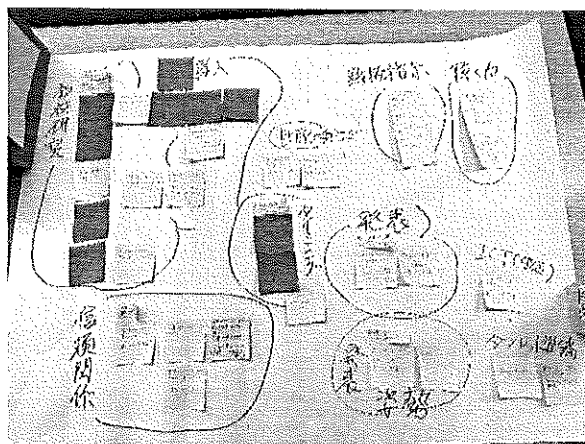
## 2 「授業研究会」を終えて

### ・令和5年7月21日（金） 1年F組「体育」

発問や活動内容の工夫により、いつも以上に生徒が運動を楽しみながらも目標の達成に向けて試行錯誤する姿を見ることができたと感じている。私自身の実演は、昨年度の初任者研修でご指導いただいた点で、「教師が積極的に模範を示す」ということを踏まえた取り組みだった。今後改善したいことは、他の教員からいただいた助言等にあるように、専門種目以外でも深い学びになる機会を増やすことだと思う。そのために、他の教員から指導方法を学んだり、教材研究を積み重ねたりすることだと思う。その上で、PDCAサイクルを取り入れながら、本時のような授業に積極的にトライし、指導の幅を広げていきたい。

### ・令和5年10月24日（火） 1年A組「保健」

この授業のテーマである、「ICTを生かした活動の工夫」に関しては、クロムブックを活用し、PowerPointやyoutubeのビデオを活用しながら、生徒の興味や関心を引き出すことができたと思う。また、もう一つのテーマである「主体的な活動を支援する授業展開の工夫」としては、ケーススタディーを導入したり、生徒に主体的に考えさせたり、探究させたりする場面を意図的に設定できた点だ。課題としては、具体的な指示が曖昧だったところ、内容が盛りだくさんになってしまったところであった。またICT活用について、Jamboard（ジャムボード）を使用し、生徒の発表内容を共有化することで有効活用ができると思った。



↑研修後の振り返り

### ・「授業研究会」全体を通して

多くの先生方からご指導をいただき、「自分の強みと弱み」を再確認することができた。また、授業研究会に向けて計画を立てながら進めてきたことで、「マネジメントする」ことの重要性を実感することができた。今後は、「評価の具現化」を特に意識して研鑽を重ねていきたい。

## 3 おわりに

本研修での取り組みがその場限りのものになってしまうように、教科の枠を越え、学校教育活動全体を通して継続的に指導をしていきたい。今後も生徒の主体性を大事にしながら、知識や技能だけでなく、論理的思考力や課題解決能力など、今後の人生に活かせるような様々な能力の育成も目標に入れながら授業づくりを行ってきたい。最後に、本研修を行うにあたり、多くの先生方にご指導、ご助言をいただきました。改めて感謝申し上げますとともに、今後ともご指導よろしくお願いたします。

## 1 研修について

総合教育センターでの研修に加え、他校での授業研修や民間企業での選択研修、特定課題研究レポートの作成を通じ、教科指導力だけでなく様々な視点から「中堅教諭としての役割」について考えるよい契機となった。特に選択研修では、民間企業では高卒で就職した社員の指導に関する悩みを相談する場所がなく困っている現状を知り、生徒の特性の共有や就職後のフォローを行うなど、民間企業と高校が連携を密にしていくことが必要だと実感した。

## 2 研修を終えて

教科指導では、「教員＝ファシリテーター」という視点を大切にしながら授業作りを実践することができた。校内授業研修会では、ジグソー法と Google ドキュメントを用いて主体的かつ ICT を活用した授業を行った。ICT を用いることで短時間にクラス全体の意見を共有できる、発言することが苦手な生徒でもドキュメントへの打ち込みだとしっかりと意見を述べるができる等のメリットを実証できた。今後も、生徒主体の授業を継続すると共に、思考や理解の深まりが「社会で起こっている現象」「自分事」と繋がった時に初めて「知識」になり、その「知識」がキャリア教育に繋がるという視点を意識して取り組んでいきたい。

教科指導以外の研修では、他校の先生方と生徒指導や特別支援に関する情報交換を行う機会があり、所属校の課題だけではなく秋田県全体の課題に対して協力して解決策を考えることができた。また講座Ⅴは今年度もオンラインで実施されたが、グループでの話し合いやチャットを用いた意見の共有などスムーズに行われ、オンライン化できるものはオンライン化する時代であると感じた。

最後に、どの講座を受講した際も、年次研修が終わった採用12年目以降の教員のアップデートが重要だと思った。年次研修があるうちは教育を取り巻く時代の変化に敏感であり、教員に求められるスキルが明確で研鑽に励むきっかけになるが、年次研修がなくなると、主体的で意欲的な教員でない限りそれまでの経験にのみ頼り、前年度踏襲の発想に陥ってしまう。その結果、業務の精選が疎かになり「ビルド&ビルド」の状態がなかなか変わらないのではないかと。教員の多忙化解消のためにも「スクラップ&ビルド」は必要だ。各校において人数が多いベテラン教員が、年々変化している生徒の実態や教育に求められる役割から目を背けたままでは公教育は社会から置き去りにになってしまうという危機感を強く感じた。同時に、今のままでは教員を志す若者だけではなく、現場で日々奮闘している若手教員や中堅教員までもが熱意と意欲を失い、教育を担う人材の減少はますます深刻になると思う。ただでさえ各校に所属する教員の年齢構成がいびつで中堅教員の負担が増加している現状において、スリム化できるものはスリム化する等、教育現場全体の在り方を変えることが喫緊の課題である。

# 特 定 課 題 研 究 レ ポ ー ト

所 属 校	秋田県立角館 高等学校	職・氏名	教 諭 築 田 晃 子
研 究 内 容	A：本県の教育課題に関する研究 B：マネジメントに関する研究 C：生徒指導に関する研究 D：教科指導に関する研究 E：道徳教育に関する研究 F：特別活動に関する研究 G：総合的な探究の時間に関する研究 H：特別支援教育に関する研究 ①：その他		
研究テーマ	建設業への就職支援について		
<p>1 研究の概要</p> <p>夏休み中に佐藤建設株式会社で選択研修を行い、建設業に対するイメージと実際の現場とのギャップに驚いた。携わった仕事が地図に残るといやりがいや誇りだけでなく、ドローンや3D画像を用いたダム建設や女性技術者の活躍、快適な現場事務所の様子など、建設業の魅力をより多くの生徒に伝え、職業選択の参考にしてもらうためにはどういった手立てを行うべきかを考察したい。</p> <p>2 成果と課題</p> <p>本校生徒192名にアンケートを実施した。  《対象者》2年生82人、3年生110人（男性70人、女性119人、性別無回答3人）</p> <p>【建設業に対するイメージ】※複数回答可</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①スキルが身につく…58.3%</li> <li>②社会貢献度が高い…44.8%</li> <li>③誇れる仕事だ…29.7%</li> <li>④残業、休日出勤が少ない／給料が高い…24.5%</li> <li>⑤アットホームな雰囲気…23.4%</li> <li>⑥優秀な人材が多い…21.4%</li> </ul> <p>⑦性別に関わらず活躍できる…15.6%</p> <p>⑧デジタル化が進んでいる…14.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑨自由度が高い…13.0%</li> <li>⑩将来性が高い…12.0%</li> <li>⑪SDGsに取り組んでいる…10.9%</li> <li>⑫安定感がある…9.4%</li> <li>⑬昔ながらの文化や慣習がある…3.1%</li> <li>⑭裁量権がある…2.1%</li> <li>⑮清潔感がある、ブラック…1.0%</li> <li>⑯以下0.5%以下（自由記述）  危険／肉体労働が疲れそう  大変そう／数学が得意だ／給与が少ない  体力がある／上下関係が厳しそう</li> </ul> <p>【身近に建設業に携わっている人の有無】  いる…44.8% いない…55.2%</p> <p>【建設業でのインターンシップや職場見学等の経験の有無】  ある…7.3% ない…92.7%</p>			

上位の項目を見ると、建設業に対して好印象を持っている割合が高く、イメージは概ね良好だと言える。

下位の項目を見ると、実際の建設業界の現状と生徒が抱えているイメージに大幅な差が見られる。



【自由記述】※抜粋

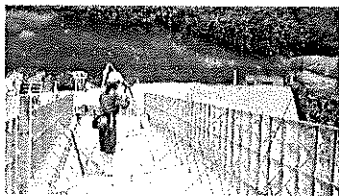
プラスの意見	マイナスの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共事業のイメージが強い。</li> <li>・沢山の人の役に立つ、社会貢献度が高い職業。誇りを持って働くことができる。</li> <li>・人々の生活を支えている大切な職業。</li> <li>・力仕事をするイメージなのでカッコイイ。</li> <li>・給与が高いイメージ。(安定している)</li> <li>・将来建設業に携わりたい。</li> <li>・今では性別関係なく活躍できる仕事だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3Kのイメージが強い。(職場環境が良くない)</li> <li>・給与が少なそう。</li> <li>・危険、残業や労働時間が長い。</li> <li>・上下関係が厳しそう。</li> <li>・良い会社と悪い会社がはっきり分かれている。</li> <li>・外にいる時間が長くて大変そう。体力勝負。</li> <li>・人手不足のイメージがある。</li> <li>・ブラックだとよく聞く。辞める人が多いイメージ。</li> <li>・力作業が多いイメージ。</li> </ul>

〈その他〉現場での事故の対処はどのようになっているのか知りたい／発想力と頭脳がなければできなそう  
／技術が問われる職業

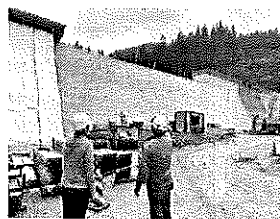
アンケート結果から、本校生徒は概ね建設業に良いイメージを持っていることが分かる。しかし、【建設業でのインターンシップや職場体験等の経験の有無】から分かるように、身近に建設業に携わっている人がいる人でも、実際に自分で見たり体験したりした経験がないに等しく、他者からの伝言やマスコミ等で得た情報をもとに今回のアンケートに回答している生徒が多いと推測される。そこで【建設業に対するイメージ】において下位に位置づけられている「⑦性別に関わらず活躍できる」「⑧デジタル化が進んでいる」「⑩SDGsに取り組んでいる」「⑫清潔感がある、ブラック」の4項目について、選択研修で体験してきた内容を踏まえまとめた。

まず、⑦について「写真1」のように、30代前半の女性技術者が駒ヶ岳の噴火に備えた砂防えん堤工事現場で働いていた。彼女は異業種から建設業に転職し、現在2人の子どもを育てながら広報担当としても活躍している。現場の事務所は整理整頓されエアコンも設置されており、更衣室やトイレは男女別々できれいであり、⑫の回答と現状には乖離が見られる。次に⑧についてだが、現場ではドローンで撮影した画像を用いて3D化し完成後の姿を可視化することで、工事に関わる全ての人々が同じイメージを持って取り組むことができていた(「写真2」)。最後に⑩について、私自身も選択研修を行う前は建設業とSDGsが結びつかず、なかなかイメージしにくかった。しかし様々な現場を見学させてもらう中で、山の掘削時に出た土砂(現場「写真3」)を別の砂防ダム建設に用いたり(「写真4」)、事務所横のスペースに畑を作り野菜を育てたり、掘削で出た土砂を無駄にしない工夫が随所に見られた。

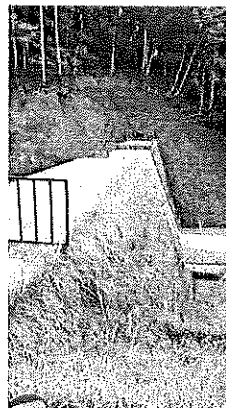
最後に、7月15日秋田県内を襲った大雨の影響で通行止めとなっていた田沢湖畔の道路の土砂撤去作業も見学させていただいた(「写真5」)。間近に迫った田沢湖祭に向け、作業は急ピッチで進められていた。この他、道路舗装工事、道路維持作業、玉川除雪センターや農地集積加速化基盤整備の現場を見学したり、落札工事契約前事務手続きに同行させていただき、仙北地域振興局に行ったりした。現場で働いている方々も事務員として働いている方々も、地図に残る仕事に誇りもをっていて、アンケートにあるように「3K」のイメージが払拭された。生徒の意識としては予想したよりは建設業に対して概ね良いイメージを持っているということが分かったので、インターンシップや企業見学等を通じて積極的に建設業をより深く知ることで、建設業に従事したいと思う生徒が増えるのではないかと。



↑写真1



↑写真3



↑写真4



↑写真5



↑写真2

# 地理歴史科（日本史探究）学習指導案

日 時 令和5年10月24日（火）6校時  
 対象クラス 2年EF組 選択者19名  
 場 所 2年F組教室  
 授 業 者 教諭 山内 孝太  
 使用教科書 詳説日本史（山川出版社）

## 1 単元名

第4章 貴族政治の展開 第3節 地方政治の展開と武士

## 2 教材観

中央で藤原氏による摂関政治が展開している頃、地方では律令体制が崩壊し、新たな土地支配制度が構築されていた。各地で荘園が開発されていくなかで、人々は武装して自らの土地を守るすべを身につけた。これに対し、中・下級貴族は治安維持のために押領使や追捕使となり、これをもとに各地に武士団が形成されていった。本時では、武士の出現がこのような地方情勢の変化を背景としていることを理解させる。その上で、朝廷との関係の中で次第に成長を遂げたことが、中世の武家政権の確立へ繋がることに気づかせたい。

## 3 生徒観

控えめながらも発問に対する自主的な発言が見られるなど、意欲的に授業へ参加できる生徒たちである。その一方で、既習内容の定着度合や知識量に大きな差が見られるため、個々人の考察を基に、いかに協働的に学習へ取り組ませるかが指導の課題となる。

## 4 単元計画（全3時間）

1 受領と負名…1/3    2 荘園の発達…2/3    3 地方の反乱と武士の成長…3/3（本時）

## 5 単元の評価規準

知識・技能 (A)	思考・判断・表現 (B)	主体的に学習する態度 (C)
地方政治の変化や武士の様相を史資料から読み取り、知識として身につけている。	地方政治の変化と武士が出現した因果関係について、社会的背景を踏まえて合理的に考察できている。	地方政治の変化と武士が出現した因果関係について、主体的に追及している。

## 6 本時の指導目標

平将門の乱を例に、武士が社会的地位を獲得する背景を理解させる。

## 7 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>武士のイメージを挙げさせ、生徒の武士に対する認識を確認する。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     本時の目標：武士が社会的地位を獲得する背景を理解する。                 </div>			
展開① 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容を確認しながら、武士が登場した理由を個々に考察する。</li> <li>「粉河寺縁起絵巻」から、武士と貴族の関係を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「尾張国郡司百姓等解」を想起させる。</li> <li>google formに入力させ、個人の考察を全体で共有する。</li> <li>読み取れていない場合は補足の質問により誘導する。</li> </ul>	
展開② 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>平将門の乱について講義を聴く。</li> <li>個人の考察を基にグループで意見をまとめる。</li> <li>「俵藤太絵巻」から、将門討伐後の藤原秀郷の社会的評価を考察する。</li> <li>貴族との結び付きを強めたことで社会的地位を獲得したことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表者にgoogle formへ入力させ、全体で共有する。</li> <li>平氏と源氏の勢力基盤が院政期と逆であることに留意させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乱の目的について社会的背景を踏まえた合理的な考察ができている (B)。</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめを記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導で本時のポイント等を助言する。</li> </ul>	

## 令和5年度 研究授業研修会【日本史探究】

- ・日 時 間・・・10月24日(火) 15:45～16:25
- ・場 所・・・被服室
- ・研 究 授 業・・・日本史探究
- ・対象クラス・・・2年EF組 選択者19名
- ・授 業 者・・・教諭 山内 孝太

### 授業者から

ICTを活用した特別な活動をさせるのではなく、普段どおりの授業の活動を、ICTを取り入れることによってより効果的にできるのではないかと、という視点から授業の構成を考えた。普段の授業では生徒にあてて発問に対する考えを尋ねるが、今日の授業ではGoogle Formで生徒全員が考察した内容を入力し、それを他者と共有するようにした。これにより全員が主体的に考えることができる。

生徒に投げかけた問いは、歴史的事実が決まっている中で残された正解の定まっていない部分について設定した。解答については「想像」するしかなく、そこから新たな発見が生まれるのではないだろうか。すなわち「想像」から「創造」へと向かうことで探究的な学習につなげることを目指した。

### 参観者から

#### 協議題①「ICTを生かした活動の工夫」について

- ・Google Formを使って自己の見解を入力する活動により、生徒全員が主体的に思考・判断・表現することを促していた。
- ・一人一人が入力した内容をスプレッドシートに反映させ、瞬時に全員で共有させた。これによって、他者の見解を参考にして自己の見解を更に深めて意見を交換し合う活動へと進めることができた。ICTを活用することで、協働的な学習から更なる探究へと学習を深めることを可能にした取り組みであった。
- ・生徒個々が入力した内容をもとにして観点別評価を行い生徒にフィードバックすることが可能であり、指導と評価の一体化の取り組みとしても有効であった。
- ・電子黒板にスライドを映して授業を進めたが、視覚的效果を良く考えてスライドが作られており、理解しやすかった。一方で、板書を活用した方が良い部分もあるのではないかと思った。例えば、学習目標や授業展開の流れを板書しておけば、生徒に本時の流れやゴールを常に意識させることができる。

日 時：令和5年10月24日（火）

場 所：秋田県立角館高等学校

対 象：1年A組29名

授業者：原 雄太

1 単元名 (2) 安全な社会生活 (イ) 応急手当

2. 単元の目標と評価規準

【目標】

- (1) 応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法について、理解することができるようにする。(知識・技能)
- (2) 応急手当に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができるようにする。  
(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法について、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元と生徒

(1) 単元観

本単元は、傷害や疾病の悪化を軽減するための適切な応急手当について学ぶことができる単元である。応急手当には正しい手順や方法があること、また、心肺蘇生等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることについて学ぶことができる。

(2) 生徒観

保健に対する興味・関心の高い生徒もいる一方で、授業に対しては消極的で、考えて発言することが苦手な生徒も多く、理解度に大きな差が生じるクラスである。応急手当の単元を通して、積極的かつ主体的に行動できるようになってもらいたい。

4 単元の評価基準

第1時	第2時	第3時
応急手当の意義とその基本① 日常的な応急手当①	応急手当の意義とその基本② 日常的な応急手当②	心肺蘇生法（実習）
○一人一人が適切な連絡・通報も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めることが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	○習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	○心肺蘇生法について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとしている。 ○心肺蘇生法においては、方法や手順について、実習を通して理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。

4 本時の計画 (1/3)

(1) 内容：応急手当の意義を理解し、緊急時に適切な処置を自ら進んで実行できる態度を養う。

(2) 目標：応急手当の必要性を自分事として捉え、その意義と正しい手順を書き出すことができる。(知識)

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点 (教師の支援)	評価 (方法)
導入 8分	1. 応急手当の意義を考える。 ..... 発問：倒れている人を発見したら、あなたならどうする？ ..... 2. カーラーの救命曲線を理解する。	・倒れている人を発見したらどうするべきかについて問いかけ、発表させる。 ・カーラーの救命曲線を提示し、命に関わる怪我や病気の場合、迅速な対応と自ら進んで行う態度が必要であることを気づかせる。	【知識】 (学習カード)
展開 40分	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             本時の目標：応急手当の必要性を自分事として捉え、その意義と正しい手順を学習シートにまとめよう。           </div> ..... 発問：こんなとき、あなたならどうする？ ..... 1. 身近に起こりうる怪我の応急手当を理解する。 ・止血法 ・RICE処置 ・熱中症 など ① グループ内で正しい処置を考える。 ② 全体場で発表する。 ③ 正しい応急手当を理解する。 2. 倒れている人(傷病者で反応がない場合)を発見した場合の応急手当を理解する。 ..... 発問：胸骨を約5cm沈み込ませる強さはどれくらいだろうか？ ..... ① 練習キッドを体験する	・身近に起こりうる怪我を提示し、正しい手順や方法について理解させる。その際、最初から答えを教えるのではなく、まずは自分たちで考えさせる。 ・グループごとにケーススタディに取り組みせ、自分事として積極的に参加させる。 ・心肺蘇生法やAEDに関する詳しい手順や方法については、次時以降で実習を交えながら学習することを伝える。 ・次時以降のイメージを持たせるために、胸骨圧迫の練習キッドを用いて実演させる。	【知識】 (学習カード)
整理 7分	1. 本時のまとめをする。 2. 学習したことを踏まえて、学習シートに感想を記入させ、発表する。	・振り返りを全体場で共有し、他者の考え方に触れさせる。 ・次時の学習内容を伝え、見通しをもたせる。	【知識】 (学習カード)

## 令和5年度 校内研究授業研修会

- ・日時時間・・・10月24日（火）15：45～16：25（40分間）
- ・場所・・・化学室
- ・研究授業・・・保健体育：保健（日常的な応急手当）
- ・対象クラス・・・1年A組
- ・授業者・・・原 雄太 先生

### ・研究授業のテーマ

○ICTを生かした活動の工夫

○主体的な活動を支援する授業展開の工夫

～「自立」「主体」「探究」「創造」のキーワードを意識して～

### 【授業者から】

#### ○工夫した点

テーマである2点について、工夫したところの、『支援する授業展開』については、生徒が主体的な活動ができるような発問とグループ分けの2点について工夫をした。

具体的には、『現時点の中学生の時の知識でOKだよ。間違ってもいいんだよ。』って、言うことで、生徒が安心して、発言できるように心掛けた。発問の内容としては、まず応急処置や応急手当というものは、誰にでも遭遇する可能性があるということを知っておかなければならないということを感じてもらうために、物とか動画とか資料などよりも、まず言葉掛けやより自分のこととして捉えてもらえるように考えた。自分が家に帰ったら家族の人が倒れていたとか、そういったことで、身近なところで自分がやらなければならない時がくるってということを知ってもらいたかった。例えば、私（本時：原）が、今ここで倒れたらどうする？とか、その辺で自分こととして、身につけさせたいと考えた。そういう意味で、今、現在の知識で、どのような行動をとればいいのか、どのように対応すればいいのか、ということを中心に考えてもらいたかった。それが、『間違えてもいいんだよ。』という声掛けになった。

『グループ分け』については、突き指など、身近に起こる手当が必要な場面で、グループ分けの仕方を考えた。当初は5～6名のグループで話し合わせる予定だったが、今日のクラス（本時：1年A組）は、5～6名のグループ分けだと話し合いに、参加しないとか、話し合いをしない、というわけではないんですけど、ちょっと埋もれたり、話が苦手な生徒が居たりするので、2人組ぐらいの方が、緊張感があり、しっかり参加するのでは、と想着て、指導案の予定を突然変更してしまった。結果的には、2人組にして話し合わせたところ、自分の意見を言わないといけないような雰囲気となり、わりとふ

たりで協力し合いながら、頑張っているのが、明確に見えて良かったと感じた。指導案の通り進めないでしまったが、クラスのレベルや雰囲気に合わせて、変えていくことも大切だと感じた。

もう一つのテーマである、ICTを生かした活動の工夫については、まず毎時間の授業では、電子黒板を使っているのですが、今回は、既存のデーターをただ使うためだけの電子黒板（ICT）を使うのではなく、今回の最後の方にあった動画だったり、私が実際に怪我をした時の、自分の足の写真を PowerPoint に取り入れて生徒に見せた。また本時のクラスの中には、言ったことを聞き取って、ノートや配布プリントに書くことができない生徒も、若干名いるので、わたしが伝えたいことを、電子黒板（PowerPoint）に埋め込んだところ、そういう生徒も、手を動かして、頭も使って書いたりするなどして、電子黒板（PowerPoint）の効果を効率よく利用しようと考えた。

#### 【授業参観者より】

良かった点について

##### ○全体的な点について

授業の始まりが良かった。

本時の目標を、あとで決めていたのが良かった。

胸部圧迫の機器の活用が良かった。

身近に起こる事例を、何種類も挙げていて良かった。

良く躰けられていた。

動きがスムーズで良かった。

前置きが丁寧で良かった。

同じ1Aなのに、数学の時より、本時の方が良く声が出ていた・・・。(数学の先生談)

興味、関心を引き出す授業がなされていた。しっかり準備されていた。

主体的な活動を引き出すための工夫（支援）がなされていた。

心肺蘇生の小物グッズが具体的でとても良かった。

##### ○発問について

誰にでも、あり得る可能性がある、という前提で授業を進めていたのが良かった。

自分のこととして、考えてもらうように、言葉遣いに気をつけた。

今ここでわたしが倒れた場合・・・、などの具体例がリアルで良かった。

こんな時、どうする？という授業の視点が良かった。

自由に発言するのは、難しいが良くできていた。

笑顔の中で、問いかけができていて、とても良かった。

原先生の許容の話し方が良くて、生徒が安心して書いていた。

自分のこととして考えさせられるように工夫していて良かった。

○グループ分けについて

グループだと曖昧になりそうだったので、グループをやめて、ふたり一組の形にしたのが良かった。

題材を、心肺蘇生だけではなく、突き指とか身近な例も取り上げていて良かった。応急処置が必要な身近なケースを、たくさん用意（調べ学習）してあって良かった。応急処置のケースを、とても面白かった。

○ICTについて

自分が怪我をして、初期対応の応急処置ができなかった場合の悪化状況のDVD（5分程度）が、身近な題材で良かった。

自分（本時：原先生）が実際にケガをした時の足首の写真が良かった。

【改善した方が良いと感じた点】

○全体的な点について

後ろの席の生徒（女子）の声が小さかったため、発言をくみ取れていなかった。声の小さい生徒の発言を拾えてなかった。

黒板に書いてあったものを、すぐには消さずに残しておいても良かったものでは・・・。

盛りだくさんで、時間が足りなかった・・・。

立たずに発表する生徒が居た。

本時の目標は、やはり黒板に明記されていることは、大切だと感じた。

○発問について

授業の組み立てとしては、本時の逆で、原先生が怪我をした写真を先に見せて、応急処置の初期対応を間違えると、こんなに腫れるんだよ、っていうやり方もあったのではないかと思った。

○グループ分け

たくさん調べたのに発表は、一組がもったいなかった。次時にぜひ発表させて欲しい。話し合う時間を決めて、あげた方が良かったと思う。

必要性が大切なので、調べ学習が合っていたので、前半にそれを膨らませた方が良かった。

いろいろなケースをせっかく調べたのに、発表が1組は、もったいなかった。その部分を、大きく膨らませて取り上げても良かったのでは。

次の時間に、残りのケースをやるつもりだったのか？

生徒をふたり一組やグループで話合わせるときは、1分、3分、5分とか、具体的な



時間を明示して話し合わせても良かったのではないかと思った。

わたし自身も、このケースはどう対応したら良いのか、自分自身の勉強の意味でも知りたかったので、すべてのケースを発表させて欲しかった。

応急処置ケースの調べ学習に重点を置いて、AED や心肺停止のテーマは、次時にするよ、って言っても良かったのでは。

#### ○ICTについて

ノートを使う機会が無かった。授業が始まる前からタブレットを準備していても良かったと思う。

最初から、タブレットを用意していても良かった。(授業が始まる前に。)

ICTとしては、ジャムボードを使って、他の生徒と共有しても良かったと思う。

生徒が倒れたビデオを、導入の段階で見せても良かったのでは？

PowerPoint で、(写真を見せて)、適切な処置をしなければこうなる、はとても良かった。(特に、自分の足首がリアルだった。)

#### 【まとめ】

##### ○体育科主任より

研究授業のテーマである、『ICTを生かした活動の工夫』に関しては、クロムブックを活用し、PowerPoint や youtube のビデオを活用しており、生徒の興味や関心を引き出していた。『主体的な活動を支援する授業展開の工夫』としては、ケーススタディーを導入したりするなど、生徒に主体的に考えさせたり、探究させたりする場面を作り、工夫がされていた。改善を要するところとしては、具体的な指示が曖昧だったところ、内容が盛りだくさんになってしまったところであった。また ICT 活用について、Jamboard (ジャムボード) を使用し、生徒の発表内容を共有化することで有効活用ができると思われる。2年目ということで、経験を積んでいければ、さらに良い授業が期待できる授業であった。今後が楽しみである。

# 第3学年 C組 国語科（古典B）学習指導案

令和5年10月24日（火）6校時  
 指導者：築田 晃子  
 場所：3年C組教室  
 教科書：『新探究古典B 古文編』（桐原書店）

## 1 単元名 物語「柏木と女三宮」（『源氏物語』）

### 2 単元の目標

- (1) 語句や文法、主語に注意し現代語訳することができる。【知識・理解】
- (2) 他者との話し合いを通じて平安貴族の生活や常識を理解し、物語に描かれた人間心理への理解を深めることができる。【読む能力】

### 3 生徒と単元（題材）

#### (1) 単元観

『源氏物語』は約千年もの間読み継がれており、「葵上と物の怪」「柏木と女三宮」の読解を通じて、平安貴族の生活や常識、何を感じ考えていたのかを多角的に捉える力を養うことのできる教材である。また、登場人物の人間性に触れることで、自らの人生や存在意義を考へる契機にもなる。難解な文章だが、高校で学習する古文教材の総まとめとして、「ものものはれ」という日本人特有の美的感覚や人間心理の普遍性を読み取ることで、古典Bの目標である「読む能力」を培い、ものの見方、感じ方、考え方を広げ深めさせたい。

#### (2) 生徒観

文法事項や古語の意味など読解に必要な基礎知識が定着していない生徒が多いが、時代背景や古典常識を踏まえて本文の内容を読むことで、全体的に「もっと続きが読みたい」という意欲を感じる。また、物事を客観的に捉え、多角的な視点から考える力の習得に課題がある生徒が見られるため、今回の教材を用いて取得の契機としたい。

#### (3) 指導観

本文の読解から登場人物の心情に迫るだけでなく、他者と協力しながら本文を根拠に登場人物の人物像に迫る活動を通じて、人間心理の普遍性に気づくことで将来に活かせる能力の育成を図りたい。自己を見つめ直し、よりよい生き方を模索する契機とすることでキャリア教育にもつなげたい。

## 4 単元（題材）の主な内容（総時数5時間 3/5）

時	学習内容
1	リード文から人間関係と場面を把握し、重要古語の意味を理解し現代語訳を完成させる。
2	第1段落を読み、女三宮の部屋の様子を理解する。
3 本時	第2、3段落から、本文を根拠にして登場人物の人物像を読み取る。
4	第2段落を読み、柏木の心情を読み取る。
5	第3段落を読み、「すきずきしきや」の内容と猫の役割について理解する。

## 5 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
登場人物の心情や行動について人間の本質について考え、自己の生き方につなげることができる。	時代背景を踏まえ物語に描かれた人物像や人間心理への理解を深めることができる。	古語の意味や敬語、主語を理解し、的確な現代語訳につなげることができる。

6 本時の計画

(1) 本時のねらい

他者と協同しながら、本文を根拠にして物語に描かれる人間像を理解する。

【読む能力】

(2) 本時の展開

学習過程	学習活動 課題  まとめ	学習形態	教師の指導・支援 評価規準
導入 10分	1 前時までの内容を確認する。  2 本時の学習課題を理解する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         本文を根拠に、「女三宮」「柏木」「夕霧」の人物像を考察しよう。                     </div> 3 本時の活動の流れを確認する。	個人  個人  個人	・ノートとプリントを参考に振り返ることを指示する。  ・学習課題を電子黒板に表示する。  ・ジグソー法を用いたグループ活動の流れを電子黒板を使って説明する。
展開 40分	4 各班で担当する人物を決め、ドキュメントを共有する。  5 担当する人物毎のグループになり、人物像を考察しドキュメントにまとめる。  6 最初の班に戻り、まとめたドキュメントを用いながら担当した人物について発表する。  7 各班の代表者がドキュメントをクラスルームにアップロードし、質疑応答を行う。	グループ (I)  グループ (II)  グループ (I)  全体	・教科書本文から根拠となる箇所を抜き出し、人物像を考察するよう指示する。  ・代表者を指定し、質疑だけではなく感想の発表も含めて積極的に発言するよう指示する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         物語に描かれる人物像を理解することができる。【読む能力】                     </div>
終末 5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         人物像を捉えるにあたり、古典常識や古語に着目することが重要だ。                     </div> 8 振り返りを入力、送信する。	個人	・入力フォームに振り返りを入力し、送信するよう指示する。

## 令和5年度 校内研究授業（国語）

- ・日 時・・・10月24日（火）14：35～15：30
- ・単 元・・・古典B 物語「柏木と女三宮」（『源氏物語』）
- ・対象クラス・・・3年C組（Aコース 進学クラス）
- ・授 業 者・・・篠田 晃子 先生

### □授業者より

生徒の主体的活動の支援のために、ジグソー法を試みた。また、google ドキュメントの共有、google クラスルームへのアップなどICTの活用にとどまることなく板書も意識して授業を進めた。google フォームを利用した振り返りは初めてだったが、生徒たちはすぐに順応して取り組んでくれた。

計画していた範囲まで前時の学習が進まなかったため、本日の活動に影響するのではないかと心配したが、今日は期待以上に本文を深く読み込んだ意見が出てきたので嬉しい。提出された振り返りを見ると、内容理解や期待していた気づきについて、概ね達成できていたように思う。

### □グループ協議より

#### ★ICTを生かした活動の工夫

- ・教員も生徒も使いこなしており、不具合もなく、活動が滞ることがなかった。
- ・共有ドキュメントにより、グループ内の他メンバーの進捗が見えて、意見を共有しやすい。
- ・クラスルームへアップしたことで、他グループ全ての意見を手軽に見られて、新たな学びがしやすい。実際に、質疑応答時に生徒から「〇班の意見を見たら、自分の考えよりもきちんと本文に照応させていて説得力があつて良かった」と、他者の意見と自分の読みを比較して自らの理解不足を補ったり読みを深めたりできていた。
- ・本文からの読解に難儀してタブレットで調べている生徒もごくわずかではあるが見られた。読解の活動の際、インターネットで調べるのをどの程度許容するべきか。

#### ★主体的な活動を支援する授業展開の工夫

- ・時間いっぱい活動を行い、本文を主体的に読もうとしている姿勢がみられた。『源氏物語』という教材のもつ力の影響もあるかも知れない。このように古典教材の魅力をこれからも伝えていきたい。
- ・ジグソー法が上手に使われていた。調べる関係が対等となり、自分の役割（読解・説明すること）への責任感が高まっている。反面、今回は見られなかったが、グループ活動の時間なのに個々の活動にとどまる者、逆に他者の意見の受け売りで済ませてしまう者への対応など、懸念される課題もあるだろう。

#### ★その他

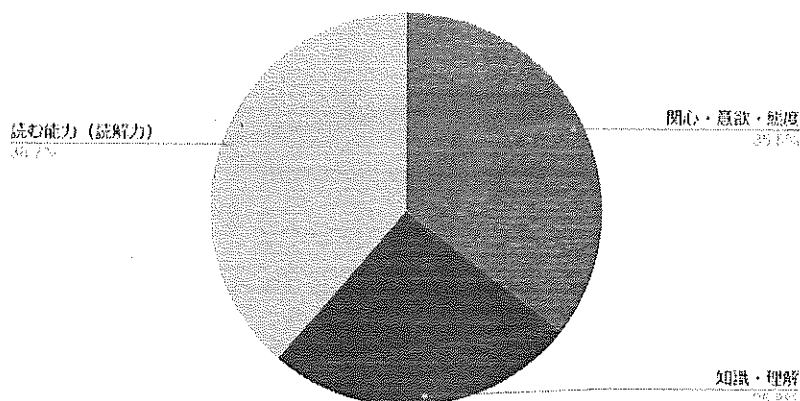
- ・授業の構成、板書案が周到に準備されていた。視覚情報、事前準備、活動の説明など分かりやすい。
- ・（質問）人物像を把握した今回の活動を、次回にどうつなげるか。古典常識への着目は、どこに気づかせたかったか。→ 猫の役割や、古典常識としての香りについて触れ、読解の深まりにつなげたい。

### □まとめ

- ・ICTを使うこと、ジグソー法をすることそれ自体は理解のための手段であり、目的化しては本末転倒である。「ICTでなければ実現できない」「ジグソーでなければ実現できない」効果を狙いながら、よりよい活用の仕方を考えていきたい。
- ・本文を読み込まないと進められない活動だった。今回は対訳があつたが、対訳の有無は活動の目的に合わせて使い分け、「何を学ばせたいか」を各授業で明確にすることが必要。

### 3C生徒の振り返りより

この授業を通して、どのような力がついたと感じますか。



### 生徒の自由記述より

柏木と女三宮の話をより深く考え理解することができた。

3人の人物像がわかったので物語が理解しやすくなったので良かった。

柏木は御几帳が一番のライバルです★

三人の言動や行動などから人物像を読み取ることができた。

柏木の愛が強くて面白かった。夕霧のスマートな振る舞いは素敵！！！！

今までよく分からないで読んでたけど、柏木がだいふ感情の浮き沈みが激しそうな人と知って、興味を持ってました。

教養が欠けていて危機感のない女三宮に対して、一途に思っている柏木は、女三宮のどこが好きなのか疑問に思いました。

私は柏木について調べ、柏木は女三宮に一途で感情豊かな人だと思いました。

猫の匂いが女三宮の匂いを感じられたのは常に女三宮の匂いを嗅いでいたのかなと思うと少し気持ち悪いところがありました。

柏木と女三宮に出てくる登場人物の人物像を考察することができました。他の班が考えていたのを見て、そんな考えがなかったので面白いと思いました。

人物像を考えられたしグループのいろんな意見がきけて面白かった。

登場人物がどんな人なのかを知ることでもでき、本文もなんとなくだが理解することができた。

他のグループの考え(女三宮・柏木)について、意見交換を通して、知識を深められる事ができた。

昔の物語でも行動や言動で物語の背景を読み取ることができるようになっていることが分かった。

登場人物の心情をよく理解できた。

人物像を深掘りすることができてよかった。

3人それぞれの個性があって読み応えがあり、他の班のまとめ方もとても面白かったです！

柏木が思っていた以上に女三宮を好いていた。

三人の人物像を読み取ることができた。それぞれ違う性格だった。

夕霧、柏木、女三宮の人物像を調べて、こういう人なんだなというイメージができました。

昔の恋愛観やルール、身分などで行動が制限されたりしていてとても興味深かったです。

柏木について深く考えることができました。ほか2人についても知ることができました。

登場人物たちの人物像などを読み取ることができてよかったと思います。

しっかり読むことで様々なことを知ることができました。

柏木について深く知ることができた。やはり平安時代と今ではやはり感性に違いがあると思いました。

商業科「簿記」 学習指導案

日 時：令和5年10月24日（火）  
 場 所：角館高等学校2年B組教室  
 対 象：2年B組情報コース16名  
 授業者：有坂 美咲  
 教科書：高校簿記（実教出版）

1. 単元名

3編 取引の記帳と決算Ⅱ 17章 決算（その2）

2. 単元の目標

① 「知識及び技術」の目標

決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。

② 「思考力、判断力、表現力等」の目標

決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

③ 「学びに向かう力、人間性等」の目標

決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

3. 生徒と単元

本単元では、決算（その1）で学習した売上原価の計算、貸し倒れの見積もり、減価償却の直接法に加え、新たに減価償却の間接法、有価証券の評価替え、費用・収益の繰り延べ・見越しの意味と記帳方法を習得させ、8桁精算表、損益計算書、貸借対照表の作成ができるようになることを目標とする。

積極的に発言する生徒は少ないが、生徒同士で相談しながら協力して問題を解こうとする姿勢がみられる。2学期中間考査で決算（その1）について出題したところ、学習内容を十分理解していない生徒も数名見られたが、その後も継続して問題演習に取り組むことで、決算整理仕訳が定着してきた。進んだ段階の決算整理仕訳に繰り返し取り組み、適切に財務諸表を作成する力を身に付けさせたい。

4. 単元の評価規準

(A) 知識・技術	(B) 思考・判断・表現	(C) 主体的に学習に取り組む態度
決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5. 指導の計画（6時間）

- ①固定資産の減価償却（間接法・定率法）
- ②有価証券の評価替え
- ③費用・収益の繰り延べ（本時）
- ④費用・収益の見越し
- ⑤8桁精算表の作成
- ⑥損益計算書と貸借対照表の作成

6. 本時の計画

(1) 本時の目標

費用・収益の繰り延べについて理解し、適切な仕訳を行うことができる。

(2) 展開

段階 (分)	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算整理仕訳の復習をする。</li> <li>・本時の目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間接法による減価償却、有価証券の評価替えを中心に前回までの学習内容を復習させる。</li> <li>・本時は費用・収益に関する決算整理仕訳を学ぶことを伝える。</li> </ul>	
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用・収益の繰り延べの意味を理解する。</li> <li>・費用を繰り延べる際に使う勘定科目を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい純損益を計算するためには次期以降に属する費用・収益は次期に繰り延べる必要があることを説明する。</li> <li>・次期に属する費用は、前払費用勘定（資産）を用いることを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え、学習に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> <li>(C) 観察・プリント</li> <li>・費用を繰り延べる技術を身に付けている。</li> <li>(A) プリント</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">費用を繰り延べる仕訳を考えてみよう。</div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用を繰り延べる仕訳を自分で考える。</li> <li>・ペアで仕訳を確認する。</li> <li>・正解を確認する。</li> <li>・問題演習をする。</li> <li>・収益を繰り延べる際に使う勘定科目を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明を聞いて、まずは相談せず、自分自身で考えてみるよう指示する。</li> <li>・隣同士で相談し、なぜそうだと思うのか理由を説明し、正解を協力して考えさせる。</li> <li>・複数問解くことで知識の定着を図る。</li> <li>・次期に属する収益は、前受収益勘定（負債）を用いることを伝える。</li> </ul>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">収益を繰り延べる仕訳を考えてみよう。</div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益を繰り延べる仕訳を自分で考える。</li> <li>・ペアで仕訳を確認する。</li> <li>・正解を確認する。</li> <li>・問題演習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用の繰り延べを参考にし、自分自身で考えてみるよう指示する。</li> <li>・隣同士で相談し、なぜそうだと思うのか理由を説明し、正解を一緒に考えさせる。</li> <li>・複数問解くことで知識の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益を繰り延べる技術を身に付けている。</li> <li>(A) プリント</li> </ul>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を復習する。</li> <li>・次時の学習を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習問題を解かせる。</li> <li>・プリントを回収する。</li> <li>・次時は当期の未払分の費用・収益の処理について学ぶことを伝える。</li> </ul>	

## 令和5年度 研究授業研修会【商業】

- ・日 時 間・・・10月24日(火) 15:45～16:25
- ・場 所・・・多目的室
- ・研 究 授 業・・・簿記
- ・対象クラス・・・2年B組(Bコース 情報コース)
- ・授 業 者・・・有坂 美咲

### 【授業者から】

今回の授業では演習問題の際、個人の活動後、ペアワークの活動を行うことでその解き方や考え方について他の人と共有し理解を深めたいと考えた。研究授業という緊張の場面であったが、生徒はいつもの通りに活動を行うことができていた。

授業の内容のボリュームが多すぎだったことや、説明にかける時間が長すぎたことで予定していた内容を終えることができなかった。

自分の考えた解き方や考え方が正しかったのかを視覚的にも理解させるために ICT を活用した。今後は生徒の主体性を引き出すための発問にも工夫をしていきたいと思っている。

### 【グループ協議より】

#### ①ICTを生かした活動の工夫

- 実物投影機を使用して生徒に配布しているプリント等を提示することで、演習問題の解き方や考え方などを適切に説明することができていた。
- 実物投影機とスライドを効果的に切り替えて活用していた。
- ICTを使用することにより黒板に書く手間や時間が短縮され、生徒への説明の時間を多くとることができていた。
- 普段の授業からペアワークをしているということから、生徒の様子も落ち着いて活動していた(ペアワークに慣れている)。
- 少人数授業の利点を活かしており、机間巡視や生徒への声かけなどが適切であった。
- 大人数の場合でも電子黒板の活用は有効か

#### ②主体的な活動を支援する授業展開の工夫(発問など)

- 授業者の声がよく通り、生徒に指示がよく伝わっていた。
- 導入段階で前時の振り返りも含めて説明していたことから、授業の入りがスムーズであった。
- 演習の際、生徒へのヒントの与え方や間の取り方が効果的であった。  
(生徒にわかりやすい例の挙げ方、生徒の興味を引くような話題 等)



- 本時の授業内容の精選（指導内容が多かった）
- 説明後の、生徒の振り返りの時間があればよかった
- 落ち着いている生徒が多く、反応が控えめであった